



# MUSASHINO *for* TOMORROW

スターダスト

特別対談 星屑が照らす“今求められる力” 前編

根本 要 | スターダスト☆レビュー  
福井直昭 | 武蔵野音楽大学理事長・学長



Vol.147

Sep 2025

# 理事長退任にあたり

## 福井直敬

このたび私は、1998年から務めた理事長の職を辞任させていただきました。在任中は、学内外の関係者各位、役員・評議員、教職員、同窓生など多くの方々のご支援、ご指導をいただき、今日まで務めることができました。深く感謝申し上げますとともに、後任者に対して変わらぬご懇情を賜わりますよう、お願い申し上げます。

さて、本年は戦後80年にあたります。終戦後は復興期における出生率の増加や経済成長などにより、2度にわたり18歳人口の大きなピークが生じました。このような状況のもと、本学園は学園発祥の地、東京都練馬区江古田に加え、1973年には埼玉県入間市に第2校地を取得し、ここに附属高等学校を開設いたしました。

しかし、バブル崩壊等の複合的要因も加わり、予想されていた第三次ベビーブームは起きず、18歳人口は多少の増減はあるものの、減少の一途を辿っていることはご承知の通りです。この間、この流れを受け、近郊に進出していた多くの大学で都市回帰が進みましたが、本学園にとりましても、これが喫緊の課題となりました。そして、いま思えば近年最大の決断でありましたが、2017年に江古田新校舎を竣工し、大学の教育・研究活動の場をここに集約いたしました。また、2024年、大学から至近の地に女子学寮を新築し、さらに現在、附属高等学校新校舎を鋭意建設中\*です。本学園ではすでに2003年に大学院博士後期課程を開設して、一貫した教育態勢を整えてまいりましたので、2027年に附属高等学校が江古田で始動する暁には、この学園発祥の地に学生、生徒諸君全員が集うことになります。

1929年に創立した本学園は、4年後に創立100周年を迎えます。古い記録にも残っておりますように、創立者福井直秋に学校設立を懇願した教員や生徒の皆さんが、校地や校名の選択、さらには建設用地の整地までも深く関わり協力を惜しまなかったことから、創立者は、この『<和>のこころ』こそが、何事においても困難達成への原動力であるとの信念により、これを建学の精神と定めました。本学園に関わる多くの方々が、この精神の真意を充分にご理解いただき、学園の輝かしい発展に寄与してくださることを切に願っております。



# 理事長就任のご挨拶

## 福井直昭

さる6月12日開催の理事会において、理事長職を拝命いたしました。学生の精進、教職員の努力はもちろんのこと、卒業生ならびに様々な関係各位のご支援を賜り、今日の武蔵野音楽学園があります。先達の情熱と献身に思いを起し、その重責に改めて身の引き締まる思いです。

来る2029年、学園は創立100周年という節目の時を迎えます。ご承知のとおり、少子化や経済状況の影響等により厳しい環境が続きますが、内部質保証システムの再構築、更なる財務の健全化などの学園基盤整備はもちろん、より良き未来に向けて着実に種々の事業課題に取り組んで参ります。また、附属高等学校（埼玉県入間市）の江古田キャンパス近隣地への移転\*（11頁参照）など、学園全体の更なるソフト・ハード両面の充実、教育活動の向上を図っていき、自立した有用な人材を育成する教育機関としての社会的責任を全うしていきたいと考えております。

100年に迫る長い歴史を次の時代に架橋していくため、微力ではありますが、学園の躍動感にあふれた充実発展を目指して全力を傾注する所存です。今後とも皆様方のご支援、ご協力を心よりお願い申し上げます。

\*東京都認可申請手続き中／学校設置計画承認済



スターダスト

# 星屑が照らす“今求められる力”

前編

## 根本 要

スターダスト☆レビュー

## 福井直昭

武蔵野音楽大学  
理事長・学長

間もなく45周年を迎える日本屈指のツアーバンド「スターダスト☆レビュー」のリーダーでボーカル&ギターの根本要さん。当意即妙トークでも有名な稀代のボカリスト根本さんと、ご本人からその後ラジオで“スタ☆レビ研究家”と評された福井学長との対談は、音楽を愛する人々に重要な示唆を与え、ユーモアにも溢れた充実の内容になりました。ジャンルを超えたお二人の熱いスペシャルトークを存分にお楽しみ下さい。

(2025年6月4日実施・スチール写真撮影:深谷義宣、ライブ写真提供:ラブソディ)

### 江古田生活とデビュー秘話

**福井:** 要さんの歌声を初めて聴いたのは、実はスターダスト☆レビュー(以下スタ☆レビ)の楽曲ではなく、私が9歳の時に映画館でみた『がんばれ!! タブチくん!!(1979)』の主題歌だったということが後に分かり、ビックリしたんです。当時はクレージー・パーティーという架空バンド名義でしたので、「あの声は要さんだったんだ!」と。

**根本:** ちょうど僕が、ここ江古田の日芸(日本大学芸術学部)に通ってる時でした。既にコンテストに勝ったりしてあちこちで歌っていたのですが、ある日ライブ後に帰宅すると、音楽プロデューサーと称する方から「君、今日歌ってたバンドの子だよな?」と電話があったんです。でも、そのバンドではセカンドボーカルだったから「僕じゃない方では?」と答えたら、「背が低い方」と言われたので「それなら僕です」となって(笑)。で、「映画やるんだけど、曲書いて歌ってみたい?」と。

**福井:** “シンガーソング・コメディアン”の異名も持つ要さんらしい、隠れたデビュー作です(笑)。

**根本:** でも70年代の頃って、プロとしてしっかり活動出来ているロックバンドは、実は殆どいなかったんです。ですから僕自身もプロになる云々より、とにかく自分の好きな音楽をやれているなら、それで充分幸せだなと。まあ、家がお医者さんをやってたんで、僕一人ぐらいいは養ってくれるだろうって甘い考えで(笑)。だから今思うと、デビューできたのは本当に“運”でしかなかった。僕は、学長のように音楽を専門的に学んできたわけじゃない。



▲初の日本武道館公演 《ONE NIGHT SOUVENIR HEY, COME ON!》  
(1987年6月25日)

自分の心に響いた音楽を模倣して曲を作って、いつの間にかプロになっていたという感じです。

**福井:** 日芸時代の江古田での思い出は？

**根本:** 実は大学自体、行くつもりがなかったんです。でも親父や兄貴から「大学行ったら、地元(埼玉県行田市)では知り合えない全国からの友達が出るぞ」って言われて。で、勉強してないから、入試科目が英語と国語だけの日芸を(笑)。

**福井:** 放送学科ですよ？

**根本:** はい。あとは面接だけ。面接はちょっと自信があったんでね(笑)。

**福井:** トーク力の高さは当時から(笑)。

**根本:** 無事入学後、新入生歓迎旅行のバスで、隣に僕と同じぐらいの身長の人が座って。当然同じ1年生だと思ってタメ口で話してたら、しばらく経ってその人が、空手部の主将で4年生だって言うんですよ。で、「あの、えー、主将は何で乗られたんですか」と。

**福井:** 突然、いまさらの敬語(笑)。

**根本:** そしたら「面白そうだなと思ったから」って。

**福井:** 訳わからない(笑)。

**根本:** で、後日、キャンパスで各々が勧誘している中、この方とたまたま目が合っちゃって「要えー！ここに住所を書け！」って。そこから僕は、空手部に…。

**福井:** 運命の再会(笑)。

**根本:** とにかく音楽をやりながらでも思ったけど、それを完全に超えているわけですよ。で、毎日毎日「辞めさせてくれ」って言い続けたが、まあ許してくれない。とうとう8月になってしまい、これ以上いたら絶対抜けられなくなると思い、江古田の漫画喫茶で覚悟の話し合いを持ちました。「お前そんなに空手部がイヤか？」って3人の先輩方に囲まれて言われたので、「いや、イヤじゃないです。ただ僕は音楽をやりたいんだ」と。

**福井:** 道場なら言えないですね(笑)。

**根本:** そしたら特にイカツイ方が、スケッチブックに描かれた少女

漫画を見せてくれたんです。僕が「えーと面白いですね。誰が描かれたんですか？」って訊いたら、その人が「俺だよ」って(笑)。続いて「俺も本当は漫画家になりたいんだよ。だからお前の気持ちは分かる。だからもう明日から、お前は後輩じゃないから」って。一瞬何言われているのかわからなかった(笑)。

**福井:** 無事脱会、いや退部したわけですね(笑)。しかし入学早々、暗黒のキャンパスライフ…私も江古田の街で、日大レスリング部や柔道部の方々と知り合いましたが、入部はしていないので今でもよいお付き合いを(笑)。

**根本:** 日芸にいた2年間は音楽仲間もたくさん増えて楽しかったけど、とにかく最初のあの4ヶ月は、人生で一番辛い地獄のような日々でした。

**福井:** その後バンドは、ポプコン優秀曲賞受賞などを経て、1981年にスターダスト☆レビューとしてデビュー。バンド名(ジャズのスタンダードナンバー『スターダスト』と、多様な音楽性をレビュー形式で披露したい思いに由来)には、幼心にインパクトを受けた記憶があります。でも、要さんの発案ではなかったんですよね？

**根本:** 当時からプロになっても売れないと思ってたし、カッコいい名前だと実物を見た時に落胆するといけなから、むしろふざけた適当な名前の方がいいなと(笑)。

**福井:** とはいっても、『アレレのレ(アマチュア時代のバンド名)』のままじゃ、さすがにね(笑)。

**根本:** 命名会議で三谷(泰弘氏:初代キーボーディスト)が発した「スターダストレビュー」っていうワードに、他のスタッフたちがワッとノッてきた。一方僕はもう『アレレのレ』を却下された時点で、「まあ皆さんが決めて下さるんだったら、何でもいいです」って。

**福井:** 自暴自棄じゃないですか(笑)。でも不思議なもので、投げやりに受け入れたその名前が、後にバンドの音楽スタイルにピッタリはまって、最近さらに一体化してきている気がします。見上げれば輝きを奏でる満天の星、誰もが心に響く多幸感溢れるライブを見せてくれるバンドですから。

**根本:** 僕もそれは感じます。ライブを重ねるたび、珍しいこの名前のように、僕らが唯一無二のバンドなんだなっていうのを。そこは三谷にホントに感謝しています(笑)。

**福井:** まさにレビューショーといえるライブは、初めて見る人でも楽しめるエンタテインメント性の高さです。DJ赤坂泰彦さんに



よる「初めてライブに行くならスタ☆レビに行け！」は、けだし名言。とにかくライブにいけば、間違いなくスタ☆レビの虜になってしまいます。

「根本要とは、現代のフランツ・リストである。  
違うのは身長だけ(笑)」(福井)

**福井:**AOR や R&B といった洋楽テイストを昇華したスタ☆レビの音楽性は、圧倒的な幅広さを誇っています。ポップス、ロックだけではなく、ジャズやブギウギ、ファンク、それに珠玉のバラードの数々。さらにメンバー全員による優れたコーラスワークも魅力ですが、その万能ぶりがかえって、私のスタ☆レビ普及活動における“一言での魅力説明”に困る理由となっています(笑)。玉手箱的というか総合格闘技的というか。

**根本:**学長はご存知でしょうが、スタ☆レビは例えば100公演周るとしたら、70曲ぐらいの中から毎日入れ替えて選曲します。だから毎回違う雰囲気になる。それがとても新鮮なんです。

**福井:**さらに要さんは、ボーカリスト、ギタリストだけでなく、作曲家、作詞家、MC、ラジオパーソナリティ、副音声家(笑)(ライブ映像副音声でも爆笑のトークを繰り広げるとマルチな顔を持たれています。以前はライブでバック宙まで(笑)。突然ですが、「ラ・カンパネラ」などで知られるリストはご存知ですよね？

**根本:**もちろん知ってます。あ、お名前くらいですが(笑)。

**福井:**リストはクラシック音楽史上、最も多様なスタイルによる1400もの曲を書いた19世紀の作曲家です。一方で、ヨーロッパ全土を席卷した超絶技巧を誇る大ピアニストでした。その他、指揮者、教育者、さらに晩年は宗教家としての顔を持ち、音楽的にも人間的にも多面性があるのが魅力なんです。ここで、私の今日一つ目の名言を発したいと思いますが、よろしいでしょうか？(笑)。

**根本:**何でしょうか？

**福井:**「根本要とは、現代のフランツ・リストである」

▼本学キャンパスのリストプラザに設置された「フランツ・リスト像」の前で



**根本:**恐れ多いな(笑)。それはあまりにも違いすぎるんじゃないですか。

**福井:**違うのは身長だけ(笑)。リストは185cmあったらしいです。あと、とてもオープンな性格で、交流関係がものすごく広がったんですよ。大作曲家って気難しそうな人が多いじゃないですか、実際誰にも会ったことないですけど(笑)。要さんのように、多くのビッグアーティストをライブのゲストで同時に呼べる方は、滅多にいない。実力とお人柄によるものですね。

歌はト書きのように

**福井:**多芸多才の要さんですが、まずは声楽専攻学生のために、ボーカリストとしてのお話を。

**根本:**よく「何を考えて歌われるんですか？」って訊かれるけど、僕はひたすら間違えないようにだけを考えてます。歌詞もそうだけど、それ以上に音程だったり、リズムだったり。

**福井:**「根本要の歌は“ト書き(脚本における俳優のセリフ以外の動作や心情、場面設定を伝える文章)”のように聴こえる」という話ですね。

**根本:**音楽自体、聴き手が感情移入できる賜物だから、自分が歌の中に入るのはトゥーマッチですね。主人公はあくまで小説なら読める人、音楽なら聴いてる人であって、歌ってる自分ではない。だから“ト書きのよう”とは言い得て妙なんだけど、誰に言われたかは忘れました(笑)。

**福井:**いい話なのに、忘れたんですか(笑)。歌い手が感情を煽るのではなく、あくまで聴く人の中に感情を広げていくわけですね。

**根本:**母が亡くなった直後、ライブで『木蘭の涙(亡くなった人を守る歌詞のスタ☆レビ代表曲)』をちゃんと歌えるかなと思ったけど、実際は泣けなかったんです。どんなに悲しくても、真剣に歌おうと思ったら、簡単には涙は出てこない。確かに、この間のKANちゃんの追悼コンサートは感極まった部分はありました。でも、それはあまりにも…歌の中にアイツがいたからで、『木蘭の涙』は少なくとも僕は詞も曲も書いてないから、お袋はその中にはいなかったのでしょうか。

**福井:**作曲は柿沼さん(清史氏:ベーシスト)ですもんね。「印税やカラオケ著作権入ってくるから、柿沼の車は“木蘭号”だ」とか言っ

てましたけど(笑)。「木蘭の涙」は、名曲ゆえ20人位のアーティストにカバーされています。

**根本:**その度に「俺の歌じゃダメか?俺で我慢してくれよ」って(笑)。「あなたより上手く歌ってますよ」ってという挑戦状を毎回受ける気がするから、僕は聴かない(笑)。でも、死ぬまで完成しない曲だと思ってます。余談ですが、歌詞を間違えないようにといえば、「今日調子が良いな」とか“次の歌詞は?”とか余計なこと考えると歌詞が出てこない時あるから、ステージはほんと魔物ですね。

**福井:**そんな時は、要さん命名の「歌詞フェイク」で凌ぐんですよ(笑)(フェイクとは、メロディーの原型を残しつつ部分的に音程やリズムに変化をつけ表現を加えることであり、もちろん歌詞には使わない)。私もステージでは“心は燃やすけど、頭は冷静に”と心掛けています。ところで、あるYouTuberが、要さんは、鼻腔共鳴と咽頭共鳴と口腔共鳴、そのバランスがとにかくすごいって言ってました。

**根本:**言葉が一つも、僕には分かんない(笑)。

**福井:**それぞれ声を通りやすく、太く、煌びやかにするテクニックで。それらのバランスの良さが響きに立体感を出しているという…私も音楽家じゃないので、ボロが出ないうちにやめときます(笑)。以前、あの歌唱力抜群のASKAさんが、「業界で自分より高い声が出るヤツはいないと思ってたけど、ここにいた。それが根本要」って。要さんは4オクターヴ出るんですよ?

**根本:**まあいつでも出せるわけじゃないけど、ギターの全音域は網羅してるかな。

**福井:**加えてASKAさんは、「要ほどミックスボイス(地声と裏声の中間に位置する第三の声。高音歌唱には必須のテクニック)が出来てる人はいない。要の声は無限だ」って絶賛されてました。

**根本:**ずっと練習してるのはウィッスルボイス(人間の声帯から出る最も高い音域。口笛のような鋭く澄んだ音色)ね。ミニ・リパートン(70年代、ポピュラー史に残る名曲“Lovin' You”等で一世を風靡)で初めて聴いて、当時は僕らとは喉の作りが違うから出せるんだと思ってたんですが、後にマライア・キャリーとかがやり出して、改めて60年代のソウルを聴いたら(出せる人が)いっぱいいた。それで自分でもトライし、最近少し使えるようになりました。

▼「STARDUST REVUE LIVE TOUR 暮れの元気なご挨拶〜お歳暮付き〜」(2008年)



▲福井理事長・学長「ジャンルこそ異なりますがスタ☆レビのライブからはステージングを大いに学んでいます」  
(ケマル・ゲキチ×福井直昭ピアノデュオリサイタル・2023年6月30日 東京オペラシティコンサートホール)

**福井:**声帯を微妙に振動させるんですかね?

**根本:**未だに出る時、出ない時があって、やってみないとわからないって感じです。

**福井:**要さんだけではなく、バンドメンバー各々が楽器を弾きながらコーラスワークを当たり前にするのも、スタ☆レビの凄さです。

**根本:**古くはビートルズ、ビーチ・ボーイズが好きで、僕は本当にコーラスに魅せられてしまいました。一人じゃ絶対できないことだからね。

**福井:**単にメロディーを補完するハモリではなく、全員で違う音を歌ってコードで進んでいく。特にライブの「ア・カベラ&アコースティック編」は極上の仕上がりで、原曲に新たな色彩感を与えている印象です。

**根本:**別々の人間の声を重ねて作るハーモニー、それが心地よく聴こえるまでは本当に時間がかかるんですよ。僕らも40年歌って、やっとこう、自分の意図するハーモニーに近づいてきたなという実感を、今噛みしめています。

**福井:**音楽において感情は、メロディー以上にハーモニーによって語られると思います。そして、ハーモニーのみならず、メンバーやゲストの個性がぶつかり合う“ケミストリー”を毎回堪能していますよ。

## 小田和正さんとの出会い

**根本:**元々僕はギタリストだったけど、必要に迫られて歌うようになり、幸い分析魔だったので、どうしたらうまく聴こえるか、カラオケで歌う人から学びました(笑)。極意としては、下手な人も聴く(笑)。なぜ下手に聴こえるか、ダメなところを参考に直していく。

**福井:**素人を反面教師にして(笑)。

**根本:**プロで言えば、小田和正さんとの出会いは、僕の人生の大きな節目となりました。

**福井:**「二代目を襲名したい」って、ご本人に仰ったって(笑)。

**根本:**もう20年以上のお付き合いですが、今でも「お前はリハーサルはうまいなあ」と言われます(笑)。でも普通は落ち込むところを、僕は「褒めてもらえた」と嬉しくなるんですよ(笑)。



▲スタ☆レビ40周年「東西あわせて108曲 煩惱ライブ」  
(2022年6月4日:さいたまスーパーアリーナ & 6月11日:大阪城ホール)

**福井:**私も学生に「リハーサルは本番のように、本番はリハーサルのように」と話しています。

**根本:**うん、そうですね。では、リハーサルみたいにうまく本番で歌うにはどうしたらいいのか？ 答えは簡単。肩の力を抜いて、全力で、適当に楽しむってこと。

**福井:**「小田さんは鼻歌でもピッチが揺るぎない(笑)」って。

**根本:**そう。僕が聴いてきた音楽って雰囲気重視で、音程はフラットしたまま歌ってるものが多く、それを魅力的とさえ思ってたんですね。ところが、小田さんの声がバンドの中ですごく響いた時、「なんだろう？あ、そっか、こういうピッチで歌うと綺麗に共鳴するんだ」って。それで初めて僕は“音程をしっかり取ろう”という気になりましたね。



▲コロナ禍で行われた40周年ライブツアー「年中模索」～しばらくは、コール＆ノースポンスで～

**福井:**要さんの昔の歌唱を聴いても、私には完璧な音程に聴こえるので、ハイレベル過ぎる話です。そういや昔、私が大1くらいの時、バッティングセンターで隣のボックスみたら、小田さんが打ってたんですよ！それが私と小田さんの唯一の出会い(笑)。

**根本:**アハハ！小田さんは野球少年だからね。上手でした？

**福井:**うーん…『言葉にできない』かな(笑)。

**根本:**うまい！(注:『言葉にできない』は小田和正さんの代表曲)

**福井:**野球と言え、先日ある大物アーティストの方がプロ野球の始球式で歌って。で、その方はとても音程がいい印象がありましたが、その時はピッチングも大暴投の上、球場だからか音程も怪しくて。つまり“投球のピッチも、音程のピッチも両方ヤバかった(笑)”。

**根本:**ガハハ！その話は相当練れてるな(笑)。

**福井:**要さんと言えば ロングトーンがお得意ですが、何かコツは？

**根本:**いかに細く長く、肺活量を使わないかですかね。あと、聴衆の可聴範囲で、高い音と低い音を同じくらいの音量でマイクに入るとまとまりが出る、ということに最近気づきました(笑)。ロングトーンのコツは、つまり省エネ投法。細く長く、蜘蛛の糸のように。つまりスタ☆レビと一緒に(笑)。

**福井:**流れて野球用語に絡めてからの、得意の自虐ネタ(笑)。

### 日本一練習しているバンドという自負、 未だに実感する成長

**福井:**続きまして楽器専攻学生のために、ギタリストとしてのお話を。

**根本:**僕は時間さえあれば、5分でも10分でも、移動のツアーバスの中やホテルなど、どこでもギターを弾いています。でも、それは僕にとって別に練習なんかじゃなく、楽しみごとなんです。

**福井:**お風呂入る時もくっついてるから、要さんからギターを外すには4桁の暗証番号が要するという(笑)。

**根本:**子供のおしゃぶりみたいなものですね。でも、ミュージシャン



は“これで完成”という天辺がないから頑張れますよね。もっと上手になりたいんなら、日々練習もするでしょ。僕は、練習は絶対に嘘をつかないと思っています。確かにいきなり結果には出ないかもしれない。けど、それがあつた時“おっ!”と繋がる瞬間があるんです。そういう一瞬を楽しみにしているから、モチベーションが保てるんです。

**福井:**「ひとは唯一の友としての自分と、唯一の敵としての自分を持つ」という格言がありますが、音大生の日々も“もう練習は止めよう”という、自分の甘い気持ちとの戦いです。でも“あと30分でよいから頑張ってみよう!”と毎日思う。その積み重ねが、自身の潜在能力を開花させる大きな原動力となると思ふます。

**根本:**プロであるなら、自分たちが作った楽曲を真つ当に演奏できる演奏力は、いつも持っているべきじゃない。でも、僕らは正直あまり上手いわけじゃなかったから、今でも練習して、それをなんとかクリアしようとしている。そして、リハも含めた本番でうまくなっていく。スターダスト☆レビューは、日本一練習しているバンドだつていう自負があります。と同時にライブ回数も多いから、失敗も多く経験している。でも、トラブルを経験して、そして限界を決めないでチャレンジしていくから、成長していくんです。45年近くやってるけど、未だ発展している実感があります。

**福井:**失敗は未来への投資。失敗した悔しさを味わうことこそ、結果的に次のステップへ繋がるだけでなく、人生をより豊かなものにしますよね。きっと読者は、要さん程のキャリアの持ち主が、毎週ライブをやりながら、未だに練習し続けることに対してリスペクトすると同時に、練習するのは苦ではないということを羨ましいと思うでしょう。



**根本:**こんな楽なことを職業にして良いのかつて、いつも思っています。よくインタビューとかで「ミュージシャンは大変ですね」つていう人いるけど、そういう質問が世のミュージシャンをダメにする(笑)。頼まれてミュージシャンになった奴なんていないのに、急に周りが「大変ですね」とかいうから、「そう、大変なんだよ」なんて言いやがる(笑)。好きでやってるくせにね。同じように、音楽が嫌いでも音大に来た人なんていないですよ。

**福井:**音大生も、そして先生たちも、初心を忘れるなという事ですよ。日常生活でもキャリアにおいても、成長と謙虚さのバランスを保つことが必要だと思ふます。(後編に続く)



▲終演後のスターダスト☆レビューのメンバーと福井理事長・学長  
45周年ツアー2025～27「星屑冒険王」野外編(2025年7月13日:日比谷公園大音楽堂)

### ☆根本 要 Kaname NEMOTO

1957年埼玉県出身。1981年、スターダスト☆レビューのメンバーとしてデビューし、これまでにリリースしたアルバムは49枚。音域の広い伸びやかな声で、バラードからアップテンポな曲まで、どんな曲も自分色に染めてしまう稀代のヴォーカリスト。また巧みな話術で、ラジオのパーソナリティーや番組出演も多数。エンタテインメントに徹したステージで観客を魅了する日本屈指のライブバンドは、45年目を迎えた現在も100公演を超える全国ツアーを展開中で、ライブ総数は2700回を超える。2001年開催の「つま恋100曲ライブ」において101曲演奏した事が「24時間で最も多く演奏したバンド」としてギネスワールドレコーズに認定される。

### ☆福井直昭 Naoaki FUKUI

1970年東京都出身。慶應義塾大学卒業、武蔵野音楽大学大学院修了、ミュンヘン音楽大学留学。ピアニストとして国内外で20を超えるオーケストラと協演し、クロイツァー賞、ブルガリア国際コンクール「Music and Earth」全部門グランプリ、ハンガリー・ジュール市記念シルバーメダル、下総皖一音楽賞等受賞。現在、武蔵野音楽大学理事長・学長の他、日本私立大学協会理事、全日本音楽教育研究会会長等を務め、学内のみならず多くの機関において重要な役割を果たす。また、教授として優秀なピアニストを多数世に輩出するほか、マスメディアへの登場も多く、音楽文化を教育・研鑽する大学の長として、音楽の枠に留まらない発信を常にし続けている。

## シュタインヴェークとスタインウェイ

ハインリヒ・シュタインヴェーク(\*1797, †1871)は、ドイツ中部ハルツ山脈の麓、ゼーゼンの町に暮らし、家具職人として生計を立てる傍ら、ギターやマンドリンなどの弦楽器製作にも携わっていました。ちょうど200年前の1825年、妻への結婚祝いとして自らピアノを製作しました。「スタインウェイ・ピアノ」の始まりです。(ピアノ販売は、1836年からと言われています。)10人の子のうち、特にテオドールとヴィルヘルムの二人は、後年父の仕事を助け、工房の発展に大きく貢献しました。

1850年、一家はアメリカ移住を決意し、蒸気船ヘレナ・スローマン号でハンブルク港を出帆します。ニューヨーク到着後、ハインリヒは名を英語風にヘンリー・スタインウェイ (Weg「道」を“way”に)と改め、マンハッタンにピアノ工場 Steinway&Sons を創設しました。さらに息子ウィリアムの主導により、1880年には故国のハンブルクにも新工場を設立し、スタインウェイは世界屈指のピアノメーカーとしての地位を確立しました。

当時の渡航記録には次のようにあります——

Steinweg & Frau & 7 Kinder v. 7-23 J. Instrumentenmacher\*  
(シュタインヴェーク、妻、7〜23歳の子ども7名、楽器職人)  
居住地: Seesen (ゼーゼン)  
行き先: "New York"  
日付: 28 Mai XXII [5月28日発(1850年)第22号船]

市川克明 (本学音楽学教授)



と記載されています。(下から2行目)

ところで、ヘレナ・スローマン号は、1850年に建造された蒸気船で、従来の帆船に比べ約半分の航海日数で大西洋を横断でき、310名を収容可能な最新鋭の船でした。シュタインヴェーク一家もその記念すべき処女航海に乗り込み、新天地アメリカへと向かったのです。しかしその年の11月、3度目の航海の折激しい嵐に遭遇、ついに難破。乗客は無事救助されたものの、船体は沈没し、これが最後の航海となったのです。

Abtheilung	Personen	Alter	Profession	Wohnort	Reisezweck
Steinweg, H.	Heinrich	52	Instrumentenmacher	Seesen	Handel
Steinweg, F.	Frau	48	Instrumentenmacherin	Seesen	Handel
Steinweg, W.	Wilhelm	18	Instrumentenmacher	Seesen	Handel
Steinweg, T.	Theodor	15	Instrumentenmacher	Seesen	Handel
Steinweg, J.	Johanna	12	Instrumentenmacherin	Seesen	Handel
Steinweg, M.	Maria	10	Instrumentenmacherin	Seesen	Handel
Steinweg, A.	Anna	8	Instrumentenmacherin	Seesen	Handel
Steinweg, E.	Elisabeth	7	Instrumentenmacherin	Seesen	Handel
Steinweg, C.	Carl	5	Instrumentenmacher	Seesen	Handel
Steinweg, G.	Gertrude	4	Instrumentenmacherin	Seesen	Handel

当時の渡航記録

## 楽器ミュージアムレター

音と色彩が織りなす音楽画の世界  
—ベルmont 絵画コレクション—

20世紀初頭のニューヨークに、音楽から受けたインスピレーションを色彩と光で表現した音楽画家がいた。名をアイラ・ジーン・ベルmont (Ira Jean Belmont 1885-1964) という。リトアニアで生まれニューヨークに渡って美術を学んだ彼は、アメリカ合衆国の印象派を代表する画家チェイス (William Merritt Chase 1849-1916) にも師事したとされている。

ベルmontは幼い頃から芸術的感性に優れており、教会の鐘の音、鳥のさえずりを聞く度に、さまざまな色が閃いたというエピソードが残されている程である。特に絵画と音の関心に興味をもち、シベリウス、チャイコフスキー、ワーグナー、ベートーヴェンなどの曲を、柔らかな色彩と光で表現する“Color-music expressionism”という独自のスタイルを確立させた。最初の音楽画の個展が開かれたのは、1921年のことである。

鍵盤楽器展示室のベルmont 絵画コレクション



それぞれの額縁にはインスピレーションを受けた曲のメロディーが書かれている



ベートーヴェン 交響曲第7番 第2楽章

本学楽器ミュージアムには、ベートーヴェン「交響曲第7番」、ワーグナー「トリスタンとイゾルデ」をはじめとする各曲からインスピレーションを受けた8点の作品が展示されている。これらは、世界各地から多数の購入申し込みがあったにも関わらず、亡夫の遺作を整理していた未亡人が、音楽評論家グリール・マーカス氏 (Greil Marcus 1945-) を介して、1977年に本学への寄贈を行ったものである。

現在では、作品の大部分が所在不明となっているため、これだけ多くの作品が同時に見られることは世界でも珍しい。また、ベルmontについての研究もほとんど見られないことから、未だ謎多き画家でもある。しかし、その他に現存する作品は、メトロポリタン美術館、ルーブル美術館、東京国立近代美術館など世界の著名な美術館で収蔵されており、その芸術性の高さ、独自性が評価されている証であると言える。

# 武蔵野生 次々とプロオケに入団!!

## 武蔵野での経験や学びが、夢の実現への後押しに

本学在学・卒業生が、プロのオーケストラ楽団に多数入団するという嬉しいニュースが舞い込んできました。それぞれ入団に至るまでの道のは異なりますが、武蔵野での経験や学びが夢の実現への後押しになったことは間違いありません。プロの演奏家として、今大きな一歩を踏み出した下記の皆さんが、武蔵野で培った大切なこと、また自身のこれからについて入団順にメッセージをいただきました。(あわせて14頁の「Musashino Topics 栄冠おめでとう!」もご参照ください。)



©平舘平

### 中村友亮 (大学4年次在学・打楽器)

東京都交響楽団  
打楽器奏者として入団(2025年2月)

#### 充実した授業・学修環境が合格に結実

高校生の頃からの夢だったオーケストラのプレイヤーになることができ、大変嬉しく思っています。武蔵野音楽大学には、尊敬する先生による個人レッスンだけでなく、合奏やオーケストラ・スタディの授業など、プロの演奏家を目指すために必要な充実した学修環境が整っており、ここでの学びが、オーディションの合格に結び付いたと実感しています。これからも常に向上心を持ち音楽と真摯に向き合い、音楽家として更に成長できるように努力を続けていきたいです。

中村友亮 Yusuke Nakamura, Percussion

2003年広島県広島市生まれ。6才より打楽器を始める。  
岡山学芸館高等学校を経て、現在、演奏学科ヴィルトゥオーゾコース在学中。  
これまでに打楽器を、安藤芳広、黒田英実、小川裕雅の各氏に師事。



©N.Ikegami/TSO

### 白井有琳 (2021年大学卒業・ホルン)

東京交響楽団  
ホルン奏者として入団(2025年2月)

#### 音楽を学ぶ事の幸せを感じながら

私はもともと入学した頃は教員を目指していました。しかし、試験や学内オーディションに取り組んでいるうち、演奏を仕事にしたいという気持ちが強くなり、気が付くとプロになる事が目標になっていました。音楽を学ぶという事は、技術力や表現力の向上はもちろん、精神力や人間性が必要だと考えます。継続して努力する力や周囲とのコミュニケーション能力など、音楽を通じて自分を磨いていく事ができます。在学生の皆さんには音楽を学べる事の幸せを感じながら4年間を大切に過ごしてほしいです。

白井有琳 Arin Shirai, Horn

北海道釧路市出身。2021年武蔵野音楽大学卒業。  
2025年2月より東京交響楽団ホルン奏者。  
島方晴康、西條貴人の各氏に師事。



写真提供:仙台フィルハーモニー管弦楽団

## 岩倉宗二郎 (2018年大学卒業・トロンボーン)

仙台フィルハーモニー管弦楽団  
トロンボーン奏者として入団 (2025年4月)

### 爽りある学生生活を経て、今ようやくスタートラインへ

卒業して早7年が経ちましたが、武蔵野音楽大学で素晴らしい先生方から多くの事を学び、同じ志を持った仲間達と切磋琢磨した4年間=1460日という長いようで短い日々の中で、無駄になったと感じた日は1日でもありませんでした。大学卒業はゴールではなくスタートラインだと思っています。武蔵野は音楽家になる為、そして1人の社会人になる為に必要な事を学べる大学です。在学生の皆さんには音楽はもちろん、それ以外の事にもぜひ沢山取り組んでもらえればと思います。

岩倉宗二郎 Sojiro Iwakura, Trombone

宮城県出身。2018年武蔵野音楽大学卒業。桐朋オーケストラアカデミー修了。  
村田秀文、松原正幸、佐藤一哉、柴田晃の各氏、室内楽を須山芳博氏に師事。  
東京フィルハーモニー交響楽団契約団員(2021年~2022年)を経て現在に至る。



©Ayane Shindo

## 千葉大輝 (2019年大学卒業・ホルン)

神奈川フィルハーモニー管弦楽団  
ホルン奏者として入団 (2025年5月)

### 1人の人間としての在り方を学ぶ

小学生の頃からプロのオーケストラ奏者になることが夢でした。こうして入団できたのも武蔵野での4年間の経験があったからだと思っています。武蔵野では、オーケストラ奏者というコミュニケーション力が必要な職業には欠かせない、1人の人間として大切な事を沢山教えていただきました。現在目標に向かって励んでいる在学生の皆さんには、ぜひ積極的に大学の強みを活かし、素晴らしいキャンパスライフを送ってほしいと思います。

千葉大輝 Daiki Chiba, Horn

宮城県仙台市出身。2019年武蔵野音楽大学卒業。  
2025年5月より神奈川フィルハーモニー管弦楽団ホルン奏者。  
須田一之、山本真、室内楽を須山芳博の各氏に師事。



## 中野涼香 (2025年大学卒業・ホルン)

仙台フィルハーモニー管弦楽団  
ホルン奏者として入団 (2025年6月)

### 何ものにも代えがたい、仲間たちとの4年間

在学中、先生方にいただいた御指導はもちろん、音楽が大好きな仲間と共に高め合った4年間は、他の何ものにも代えがたい人生で最も濃い貴重な時間でした。また、武蔵野では、社会に出る上で大切なコミュニケーション能力や人間性を磨く事など、音楽面以外でも沢山の事を学ばせていただきました。在学生の皆さんには、1日1日を大切に、小さな事でも目標を持ち、悔いが残らないよう様々な事に躊躇せず挑戦して行ってほしいです。

中野涼香 Ryoka Nakano, Horn

12歳よりホルンを始める。2025年武蔵野音楽大学卒業。同年、仙台フィルハーモニー管弦楽団2、4番ホルン奏者として入団。  
溝口哲矢氏、飯笹浩二氏、日高剛氏、丸山勉氏の各氏に師事。デヴィッド・クーパー氏のマスタークラス受講。室内楽を宮下英士氏に師事。

# 来春の竣工(2027年4月開校予定)に向け、 順調に進む高校新校舎建築工事



2027年4月開校予定 附属高等学校新校舎外観(2025年7月現在計画パースイメージ)  
設計施工:(株)長谷工コーポレーション

既に本誌でも詳報させていただいている武蔵野音楽大学附属高等学校の東京移転プロジェクト(2027年4月開校予定)の建設工事が中盤を迎えています。埼玉県入間市から移転する新校舎の建設地は、かつて旧学生寮「むらさき寮」が建っていた場所です。1956年竣工以来、半世紀以上にわたり学生たちを見守り続けた「むらさき寮」の記憶を胸に、新校舎は音楽教育の新たな拠点として、この地に根ざした教育の伝統を受け継ぎながら発展していくことになります。

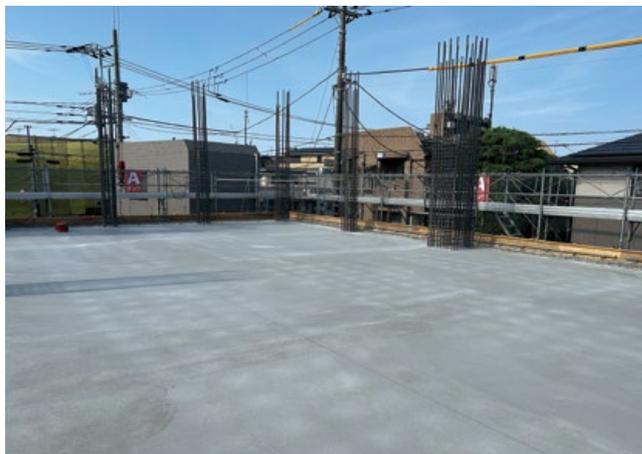
2025年1月末の杭工事着手に続き、3月中旬からは基礎工事に着手。地中深くに打ち込まれた杭の上に、新校舎の礎となる基礎

が築かれました。さらに7月上旬には1階床コンクリートの打設が完了し、新校舎の骨格が形作られてきました。その後、8月中旬には1階立ち上がりコンクリートの打設が完了、9月中旬に2階立ち上がりコンクリートの打設が完了するなど、工事開始から半年強、順調な歩みを続けています。

また建設工事と並行して、内外装の製作図確認作業も進められており、新時代の音楽教育に適した気づきと創造力をもたらす空間づくりを目指して、設計から施工まで細部にわたる検討が、設計施工担当の(株)長谷工コーポレーションと本学園の間で重ねられています。竣工は2026年4月の予定です。



2階床配筋(2025年7月22日)



2階床打設(2025年7月25日)

## 2025年4月から7月に開催した演奏会

### 令和6年度音楽学部卒業生新人演奏会

- 〔開催日〕 2025年4月18日(金)  
 〔会場〕 プラームスホール  
 〔出演〕 榎木孝明(Perc.)、根岸佑奈(Trb.)、石田光希(Pf.)  
 荒木七海(Vln.)、宮野恵輔(Cl.)、上田 駆(Bar.)  
 増田珠里(Pf.)



### オハイオ州立大学 ウィンド・シンフォニー演奏会 指揮=ラッセル・C.ミケルソン

- 〔開催日〕 2025年5月10日(土)  
 〔会場〕 ベートーヴェンホール



### 令和6年度大学院修士課程修了生 新人演奏会

- 〔開催日〕 2025年5月16日(金)  
 〔会場〕 プラームスホール  
 〔出演〕 木田桃華(Vla.)、香村佳澄(Cl.)、塙 梨華(Sop.)  
 曾田 響(Pf.)、田中初音(Fl.)、齋藤菜々子(Sop.)  
 目黒遥菜(Pf.)



### ケマル・ゲキチ客員教授 ピアノ・リサイタル

- 〔開催日〕 2025年6月27日(金)  
 〔会場〕 ベートーヴェンホール



### 坂東玉三郎特別招聘教授 公開講座

- 〔開催日〕 2025年7月2日(水)  
 〔会場〕 プラームスホール



### ウィンドアンサンブル演奏会 指揮=テリー・オースティン(本学客員教授)

- 東京公演  
 〔開催日〕 2025年7月15日(火)  
 〔会場〕 東京オペラシティ  
 コンサートホール

- 埼玉公演  
 〔開催日〕 2025年7月17日(木)  
 〔会場〕 ウェスタ川越 大ホール



## 大学令和6年度卒業式・修了式、令和7年度入学式

3月15日、ベートーヴェンホールにて令和6年度大学学部卒業式、大学院（博士前期課程・博士後期課程）修了式、別科修了式を挙行了しました。

式典は、オルガンの前奏に始まり、福井直昭学長から音楽学部、修士課程の代表者、博士課程の修了生へ学位記が、別科修了生代表へ修了証がそれぞれ授与されました。続いて学長式辞、卒業生答辞、記念品贈呈と進行し、最後は合唱「ほたるの光」で締めくくられました。

式後には、別れを惜しみつつ教職員や友人と記念写真を撮る卒業生の姿が多く見られました。また、都内のホテルにて開催された卒業生主催による謝恩パーティーでは、お世話になった先生方や学友と思い出話に花が咲きました。卒業生の皆さんが本学での学びを胸に社会の様々な分野で活躍されることを期待します。



音楽学部総代 高岡愛実(音楽学コース)



答辞 中島 結(ヴィルトゥオーゾコース フルート専攻)



修士課程修了生各専攻代表者



4月1日には同じくベートーヴェンホールにて令和7年度大学院・大学・別科入学式が執り行われました。式では福井直昭学長による式辞および新入生代表による宣誓が述べられた後、

在学生による華やかな奏楽が披露され、新入生の新たな門出を祝いました。



福井直昭学長式辞



## 留学生交流会開催

7月10日、本学キャンパスレストラン“インテルメッツォ”にて、「留学生交流会」を開催しました。本交流会は、本学に在籍する留学生が互いに、また教職員との交流を深めることを目的に企画されたもので、当日は100名以上の留学生が参加しました。

会は、タイ・カナダ・韓国・中国出身の学部1年生4名による司会進行のもと、留学生による二胡の演奏、福井理事長・学長

による歓迎の挨拶で始まりしました。乾杯後は、学部や国籍の垣根を越えた活発な交流が見られ、最後にはビンゴゲームを行い、大いに盛り上がるひとときとなりました。

本学では、今後も留学生が安心して充実した学生生活を送れるよう、引き続きさまざまな支援と交流の機会を提供してまいります。



## Musashino Topics

### ▶ 令和6年度音楽大学卒業生演奏会(桃華楽堂)

2025年3月10日、皇居内にある音楽ホール桃華楽堂で、在京5音楽大学の代表による「音楽大学卒業生演奏会」が開催されました。本学からは、増田珠里さん(ピアノ独奏)が出演させていただきました。

### ▶ 令和6年度クロイツァー賞受賞者

日本のピアノ音楽発展に寄与した故レオニード・クロイツァー教授の名を冠した「クロイツァー賞」。東京藝術大学、国立音楽大学、武蔵野音楽大学の大学院修了生から、毎年特に優れた成績を修めた学生が選出されます。本学からは大学院研究科修士課程ヴィルトゥオーゾコース修了の目黒遥菜さんが選ばれ、2025年7月6日東京文化会館小ホールにおいて開催された受賞者による演奏会に出演しました。

### ▶ 栄冠おめでとう!(コンクール入賞者等)

「2025年第40回日本管打楽器コンクール」において、中村友亮さん(大学4年)パーカッション部門 第1位ならびに特別大賞・内閣総理大臣賞、杉田優希さん(2024年大学卒)ユーフォニアム部門 第2位、白井有琳さん(2021年大学卒)ホルン部門 第3位に輝きました。

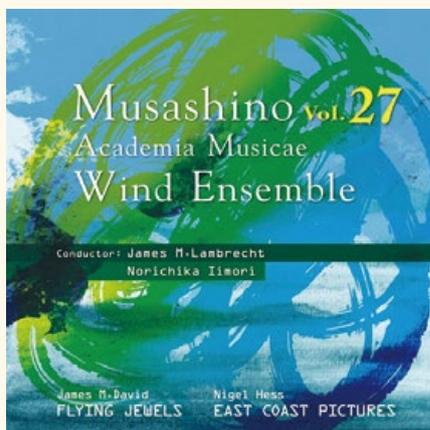
その他のコンクール入賞者等は大学ウェブサイトに掲載しています。ぜひご覧ください。

### ▶ 本学名誉教授の称号授与

永年にわたる教育上、学術上の顕著なご功績により、令和7年4月1日付で岡崎耕治氏(ファゴット)、ケマル・ゲキチ氏(ピアノ)に、武蔵野音楽大学名誉教授の称号が授与されました。

### ▶ 武蔵野音楽大学ウィンドアンサンブルCD最新盤の発売

本学ウィンドアンサンブルのCD Vol.27が、ブレーン株式会社から5月16日に発売されました。2024年度の定期演奏会のプログラムからデヴィッド：フライング・ジュエルやヘス：イーストコーストの風景の他、全6曲が収録されています。(指揮=ジェームズ・M.ランブレクト、飯森範親)お求めはお近くの販売店、または本学演奏部窓口でも販売しています。(税込2,530円)



## 附属高等学校各種行事

### [ドリームコンサート2025]

2月23日、バウハザールにてドリームコンサートを開催しました。本コンサートは、生徒たちの学びの成果を発表する場として毎年度末に実施しており、卒業を迎える3年生にとっては、在校生とともに臨む最後の舞台でもあります。当日は600名近くの方にご来場いただき、パイプオルガン演奏や合唱、吹奏楽、各種アンサンブルなど多彩なプログラムを披露し、盛況のうちに終演しました。



### [附属高等学校令和6年度卒業式・令和7年度入学式]

3月1日に令和6年度卒業式がブラムスホールにおいて、さらに4月2日には令和7年度入学式がバウハザールにおいて挙行されました。卒業生、入学生たちは、晴れやかな表情で式に臨み、新たな生活への第一歩を踏み出しました。



### [サマーアンサンブルコンサート]

7月5日、ブラムスホールにてサマーアンサンブルコンサートを開催しました。一学期の授業の集大成として、弦楽、声楽アンサンブル、混声合唱、十五重奏を発表しました。生徒たちは演奏のみならず、楽器のセッティングやプログラム作成にも携わり、演奏会の運営について実践的に学びました。



### [修学旅行]

6月4日から6日にかけて、本校2年生が修学旅行で関西を訪れました。大阪では開催中の大阪・関西万博を訪れ、未来社会について関心を高める貴重な機会を得た一方、ユニバーサル・スタジオ・ジャパンでは、友人たちと楽しい時間を過ごしました。京都では銀閣寺を拝観し、さらに三味線と日本舞踊の体験を通して、日本文化への理解を深めました。



## 附属幼稚園各種行事

各幼稚園では、令和6年度修了式が開かれました。堂々と修了証書を受け取り、お祝いの言葉にお礼を伝え、修了の歌を歌う卒園児たちの姿は自信に満ちており、三年間の成長を感じさせてくれました。一方、令和7年度入園式は桜満開の中行われ、新入園児は保護者と共に笑顔で登園し、新たな園生活の始まりに、期待が高まる一日となりました。



また、春の遠足では野外でのびのびと活動した他、野菜の栽培やおみせやさんごっこ、消防署見学、プールあそびなど、様々な体験を重ね、子どもたちは大きく成長しています。



## 武蔵野音楽大学武蔵野幼稚園閉園セレモニー

武蔵野音楽大学武蔵野幼稚園は令和6年度をもって閉園し、53年の歴史に幕を閉じました。本幼稚園は昭和47年、入間キャンパスに開園して以来半世紀にわたり、入間市を中心とした周辺地域における幼児教育機関として活動し、これまで送り出した卒園児は約5000人を超え、それぞれが社会の中で立派に活躍をしております。

3月9日には、卒園児や関係者など600名近くの来場者を迎え、パッハザールにて閉園セレモニーを行いました。式はパイプオルガンの奏楽に始まり、武蔵野音楽大学福井直昭学長、塚田園長、保護者会会長がそれぞれ挨拶を述べた後、園の歩みをまとめた動画の上映、演奏会、園歌斉唱と多彩な内容で行われ、参加者は思い思いに園史を振り返りました。また、セレモニー終了後は幼稚園の園舎・園庭開放を行い、懐かしい友人や先生と再会し、当時の写真などを感慨深く観る姿が多く見られました。

これまで長年にわたり、本幼稚園の幼児教育に対して温かなご理解、ご協力を賜りました保護者の皆様、並びに多くの関係者の皆様に、心から感謝申し上げます。



## 武蔵野音楽学園教育運営推進協力寄附金 ご寄附をいただいた方々

学校法人武蔵野音楽学園では、寄附金に対する税額控除制度の恩典が与えられたことに鑑み、教育環境整備基金、福井直秋記念奨学基金並びに演奏活動特別基金の拡充を目的とする寄附金を募集しましたところ、下記の方々よりご寄附をいただきました。ここにご芳名を掲載し、深く感謝の意を表します。学校法人 武蔵野音楽学園

### 同窓生

飯泉祐美子様	蘇 惇媛様	永田伸子様	林 秀樹様	安田久美子様
坂井直美様	高市方子様	丹羽多加子様	北條晶子様	武蔵野音楽大学98年度入学生有志
佐久本真智子様	徳田ゆき様	長谷部礼子様	細堀とも子様	

### 在学生・同ご父母

赤見孝仁様	岸野真弓様	島田寛子様	鈴木勝也様	鄭 麗様	新田英昭様
井原菜穂子様	小原悦子様	清水康智様	高桑枝実子様	新實曜子様	松崎泰資様

### 役員・教職員・一般・他

阿久津三智子様	上原正子様	佐野悦郎様	田口久仁子様	中田淳子様	福井直敬様	横地ちひろ様
石井牧子様	岡野壽子様	重松 聡様	田代愼之介様	原田知子様	古谷輝子様	渡邊規久雄様
井上久美子様	奥田 操様	嶋田英里様	戸田史郎様	福井 修様	森田美智子様	
上原 明様	坂下裕子様	関根弘美様	永岡信幸様	福井直昭様	山路 讓様	

(他に匿名を希望される方22名)

※ご芳名(五十音順)は、2024年7月1日から2025年5月31日までに寄附いただいた方々です。

それ以降の方々は、次号にて掲載させていただきます。また勝手ながら掲載区分は当方で決めさせていただきます。何とぞご了承ください。

※本学ウェブサイトからも、クレジットカード決済によりご寄附のお手続きができます。是非ご利用ください。

## オープンキャンパス、中高生のためのステップアップ・レッスン、音楽指導者セミナー、指導者のための特別講座

オープンキャンパス		
開催日	主な実施内容	会場
2025年10月19日⑩	ガイダンス(大学案内)、 附属高等学校説明会、体験レッスン、学生によるコンサート、 キャンパスツアー、体験授業、 質問コーナー、保護者説明会、他	武蔵野音楽大学 江古田キャンパス
2026年 3月22日⑩		

中高生のためのステップアップ・レッスン		
開催日	内容	会場
2025年10月 5日⑩	ピアノ・パイプオルガン 声楽・管楽器・打楽器・弦楽器 の個人レッスン、個別相談	武蔵野音楽大学 江古田キャンパス
2025年11月30日⑩		
2026年 2月15日⑩		

音楽指導者セミナー		
開催日	主な実施内容	会場
2025年10月12日⑩	本学講師陣による、楽器や声楽などの指導者、 小学校・中学校・高等学校の先生を対象としたセミナー 全10講座を開講	武蔵野音楽大学 江古田キャンパス

指導者のための特別講座		
日程	内容	会場
2025年11月30日⑩	声楽・管楽器	武蔵野音楽大学 江古田キャンパス
2026年 2月15日⑩	ピアノ・弦楽器	

## 受験講習会(大学・高校)

日程	講習会名	会場
2025年12月24日⑩～26日⑩	冬期受験講習会	武蔵野音楽大学 江古田キャンパス
2026年 3月27日⑩～29日⑩	春期受験講習会	

※事前申し込みが必要です。詳細は本学ウェブサイトをご覧ください。

【要項請求】本学ウェブサイト内の「資料請求フォーム」からお申し込みいただくか、本学広報室(TEL.03-3992-1125)へお電話にてご請求ください。

【お問合せ】武蔵野音楽大学 入学センター TEL. 03-3992-2500 E-mail: nyugaku-c@musashino-music.ac.jp

武蔵野音楽大学ウェブサイト <https://www.musashino-music.ac.jp/>

2025年9月から2026年3月に開催の演奏会

9月30日㊥ (18:30)	武蔵野音楽大学 コンコルディア奨学金受給記念コンサート 大西宇宙 バリトン・リサイタル ピアノ=峯井美貴 曲目=ラヴェル：ドゥルシニア姫に心を寄せるドン・キホーテ ロッシニ：《セヴィリアの理髪師》より《俺は街の何でも屋》他	ベートーヴェンホール (江古田)	無料(全席自由・要予約)
10月4日㊤ (14:00)	入間市「市民コンサート」 武蔵野音楽大学管弦楽団演奏会 主催=入間市教育委員会 指揮=和田一樹 曲目=アルチュニアン：トランペット協奏曲 変イ長調 チャイコフスキー：バレエ音楽《白鳥の湖》より 他	バッハザール(入間)	無料(要入場整理券) お問合せ：入間市社会教育課 TEL：04-2964-1111(代表)
10月5日㊤ (14:00)	陸上自衛隊中央音楽隊 & 武蔵野音楽大学ウィンドアンサンブル キャンパスコンサート2025 曲目=第1部 武蔵野音楽大学ウィンドアンサンブル ジル-：イタリアン・ラブソティ 他 第2部 陸上自衛隊中央音楽隊 リード：アルメニアン・ダンス パートI 他 第3部 合同演奏 ウィーラン(編曲：ストロメン)：リヴァーダンス 他	ベートーヴェンホール (江古田)	無料(全席自由・要予約)
10月13日㊤・㊥ (18:30)	武蔵野音楽大学 コンコルディア奨学金受給記念コンサート 木林理絵 ピアノ・リサイタル 曲目=ラヴェル：鏡 ブラームス：ピアノ・ソナタ 第3番 へ短調 Op.5 他	ブラームスホール (江古田)	無料(全席自由・要予約)
10月17日㊤ (18:30)	ミーシャ・ダチッチ客員教授 ピアノ・リサイタル 曲目=シューマン：フモレスケ 変ロ長調 Op.20 リスト：バッハの名による幻想曲とフーガ S.529 他	ブラームスホール (江古田)	¥2,000(全席自由)
10月24日㊤ (18:30)	崔 文洙客員教授 ヴァイオリン・コンサート & 公開レッスン ピアノ=水野ゆみ 曲目=ベートーヴェン：ソナタ 第5番 へ長調 Op.24《春》 ソナタ 第9番 イ長調 Op.47《クロイツェル》	ブラームスホール (江古田)	¥2,000(全席自由)
11月6日㊥ (18:30)	ラインホルト・フリードリヒ トランペット・コンサート & 公開レッスン 曲目=シャルリエ：演奏会用独奏曲 アルブレヒト：トランペットとピアノのための変奏曲 ハンセン：ソナタ Op.18 他	ブラームスホール (江古田)	¥2,000(全席自由)
11月20日㊥ (19:00)	ニュー・ストリーム・コンサート 57 ～ヴィルトゥオウズコース演奏会～ 出演=大竹 豊 (Bar.)、後藤紫織 (Vin.)、瀬良杏奈 (Pf.)、清水晴楼 (Sax.) 松元駿介 (Fl.)、曾田美音 (Pf.)	TOPPANホール	¥1,500(全席自由)
11月27日㊥ (18:30)	管弦楽団演奏会 指揮=原田慶太楼 曲目=ショスタコヴィチ：祝典序曲 Op.96 小田実結子：生まれかわりの旅 ～出羽の山々に想いを馳せて～ チャイコフスキー：交響曲 第4番 へ短調 Op.36	東京オペラシティ コンサートホール	一般¥1,500/小中高生¥1,000(全席指定)
11月30日㊤ (15:00)	第16回音楽大学オーケストラ・フェスティバル2025 武蔵野音楽大学管弦楽団(同日出演：東京音楽大学、洗足学園音楽大学) 主催=音楽大学オーケストラ・フェスティバル実行委員会 ミュゼザ川崎シンフォニーホール 東京芸術劇場 指揮=原田慶太楼 曲目=チャイコフスキー：交響曲 第4番 へ短調 Op.36	ミュゼザ川崎 シンフォニーホール	¥1,500(全席指定) お問合せ：ミュゼザ川崎シンフォニーホール TEL：044-520-0200
12月2日㊥ (18:30)	室内合唱団演奏会 指揮=片山みゆき、佐藤洋人 ピアノ：齋藤誠二、川瀬紗綾 曲目=バレストリーナ：バビロンの河のほとり、鹿が谷川を慕いあえぐがごとく 寺嶋陸也：合唱とピアノ連弾のための《ともだちシンフォニー》他	ベートーヴェンホール (江古田)	¥1,000(全席自由)
12月5日㊤ (18:30)	アートマネジメントコース企画制作公演 手紙～音楽に想いを込めて～	ブラームスホール (江古田)	無料(全席指定・要予約)
12月15日㊤ (18:30)	ウィンドアンサンブル演奏会 指揮=飯森範親 曲目=ナヴァロ：リベルタドーレス バーンズ：交響曲 第3番 Op.89 他	東京芸術劇場 コンサートホール	一般¥1,500/小中高生¥1,000(全席指定)
12月18日㊥ (19:00)	バシフィックフィルハーモニア東京(本学合唱団第九共演)定期演奏会 主催=(一社)バシフィックフィルハーモニア東京 指揮=飯森範親 合唱指揮=藤井宏樹、佐藤洋人 合唱=武蔵野音楽大学合唱団 ソリスト=小林沙羅(Sop.)、山下裕賢(M-Sop.)、西村 悟(Ten.)、平野 和(Bs-Bar.) 曲目=ベートーヴェン：交響曲 第9番 二短調 Op.125(合唱付き)	東京芸術劇場 コンサートホール	S：¥7,500 A：¥6,000 B：¥5,000 C：¥4,000 U25：¥1,500 お問合せ：(一社)バシフィックフィル ハーモニア東京 TEL：03-6206-7356
3月14日㊤(13:00)	令和7年度卒業演奏会	ベートーヴェンホール (江古田)	無料(全席自由)
3月15日㊤(13:00)			

※やむを得ない事情により、開催日時・出演者・曲目等を変更する場合がありますので、あらかじめご了承ください。  
※チケットは本学主催の公演のみ本学ウェブサイトより購入できます。

●お問合せ 演奏部 TEL. 03-3992-1120 ●武蔵野音楽大学ウェブサイト <https://www.musashino-music.ac.jp/>

# Contents Vol.147 2025

- |                  |                                      |   |
|------------------|--------------------------------------|---|
| 1                | 理事長退任にあたり<br>理事長就任のご挨拶               | 福井直敬<br>福井直昭  |
| <hr/>            |                                      |   |
| 2                | 巻頭 特別対談                              | <small>スターダスト</small><br>星屑が照らす“今求められる力”(前編)<br>根本 要(スターダスト☆レビュー)×福井直昭 理事長・学長   |
| <hr/>            |                                      |   |
| 8                | 音楽の万華鏡<br>楽器ミュージアムレター                | シュタインヴェークとスタインウェイ<br>音と色彩が織りなす音楽画の世界 —ベルモント絵画コレクション—  |
| <hr/>            |                                      |   |
| 9                | 在学・卒業生インタビュー                         | 武蔵野生 次々とプロオケに入団!!<br>中村友亮 白井有琳 岩倉宗二郎 千葉大輝 中野涼香  |
| <hr/>            |                                      |   |
| 11               | 来春の竣工(2027年4月開校予定)に向け、順調に進む高校新校舎建築工事 |   |
| <hr/>            |                                      |   |
| 12               | Musashino News                       | 2025年4月から7月に開催した演奏会<br>大学令和6年度卒業式・修了式、令和7年度入学式<br>留学生交流会開催<br>附属高等学校各種行事<br>附属幼稚園各種行事<br>武蔵野音楽大学武蔵野幼稚園閉園セレモニー                             |
| <hr/>            |                                      |   |
| Musashino Topics |                                      |   |
| <hr/>            |                                      |   |
| 17               | Campus Information                   | 武蔵野音楽学園教育運営推進協力寄附金 ご寄附をいただいた方々<br>オープンキャンパス<br>中高生のためのステップアップ・レッスン<br>音楽指導者セミナー<br>指導者のための特別講座<br>受験講習会(大学・高校)<br>2025年9月から2026年3月に開催の演奏会 |

表紙の写真

根本要氏(スターダスト☆レビュー)と本学 福井直昭理事長のブラームスホールで、ピアノを囲んでのフォトセッション。対談は、音楽に造詣の深いお二人ならではの話題から、福井理事長のスタレビ愛溢れる話題まで、終始笑顔の絶えない和やかな雰囲気の中行われました。



学校法人 **武蔵野音楽学園**

武蔵野音楽大学大学院  
博士前期課程・博士後期課程  
武蔵野音楽大学  
武蔵野音楽大学別科  
武蔵野音楽大学附属高等学校  
武蔵野音楽大学第一幼稚園  
武蔵野音楽大学第二幼稚園  
附属音楽教室 江古田・入間・多摩

江古田キャンパス | 〒176-8521 東京都練馬区羽沢 1 丁目 13-1  
TEL. 03-3992-1121 (代表)

入間キャンパス | 〒358-8521 埼玉県入間市中神 728  
TEL. 04-2932-2111 (代表)

パルナソス多摩 | 〒206-0033 東京都多摩市落合 5-7-1  
TEL. 042-389-0711 (代表)

武蔵野音楽大学ウェブサイト <https://www.musashino-music.ac.jp/>

